

萩の湯だより 11月号

NO. 100

発行日 令和7年11月01日

作成者 長沼 雄三



住所 東京都台東区根岸2-13-13
JR 山手線鶯谷駅徒歩3分 JR 日暮里駅徒歩8分
電話 03-3872-7669
HP アドレス <http://haginoyu.jp/>
営業時間 朝湯 6:00~9:00 (最終受付 8:30)
11:00~深夜 1:00 (最終受付 0:30)

料金 大人550円 小学生200円 幼児100円
サウナ プラス350円 (土日祝450円)
タオルセット 100円

リンスインシャンプー・ボディーソープ無料

定休日 第3火曜日 (祝日の場合翌日水曜)

11月2日(日)は谷中クラフトコーラの湯
薬湯が「谷中クラフトコーラの湯」となります。初めての開催です。サウナ利用者先着200名様に谷中クラフトコーラを差し上げます。

11月24日(月祝)は生レモン湯
11月24日の月曜日は生レモン湯です。愛媛県から取り寄せた収穫したての国産レモン40キロを薬湯、露天風呂に使用します。

レモンの精油成分でお肌すべすべ、柑橘系の香りでフレッシュしてください。当日は先着2,000名様にヤクルトを差し上げます。

東京銭湯スタンプラリー2025

期間: 11月1日(土)~11月30日(日)

東京都公衆浴場のイベントです。スタンプ7個(最低3浴場以上)を集めると先着で銭湯ホッピングタオルプレゼント。当店はシンプルタイプタオルの引き換え店です。詳しくはポスターや東京銭湯HPをご覧ください。

*オーナーのコラム

10月22日~28日までフィンランド、エストニアの海外視察研修に行ってきました。萩の湯のお客様がこの地域でまず思い浮かべるのは「サウナ」かと思いますが、その話題は次回に譲り、今回はサウナ以外で印象に残った点をご紹介します。

羽田を21時50分に出発しヘルシンキ到着は現地の午前4時(日本時間午前10時)。ロシア上空を飛行できないため、約12時間を超える長旅となりましたが、北極圏を迂回するルートでオーロラを見ることができました。ヘルシンキへ到着して最初に驚くのは物価の高さ。500ML ペットボトルのコーラで500円、レストランで頼んだ瓶ビール500MLは2,000円、ランチも街中で3,000円くらいです。日本の3倍の感覚。フィンランド人の平均月収がおおよそ70万円と高水準ですが、それでも外食はあまり一般的ではないとのこと。仕事終わりの飲み会もなくオフィスワーカーは17時になったらすぐ帰宅するという必要以上に頑張らない国民性です。実際、視察中に乗ったバスの運転手が30分ほどの残業に対して不満を漏らしていたのも印象に残りました。街中を歩くと、新旧問わずデザイン性の高い建物が並び、その間を走るトラムが街並みによく調和しています。新しい建築では、ヘルシンキ中央図書館「Oodi(オーディ)」が象徴的です。公共建築の予算の1%を芸術に↑

薬湯の予定

11月

1	土	ホットハーブ	16	日	マイトルビン
2	日	谷中コーラ	17	月	万田酵素
3	月	生緑茶	18	火	定休日
4	火	金木犀	19	水	ホットハーブ
5	水	リンゴ	20	木	ボジョレー
6	木	乾燥ラベンダー	21	金	生緑茶
7	金	ボジョレー	22	土	リンゴ
8	土	生姜エキス	23	日	じゃばら
9	日	ルイボスティー	24	月	生レモン湯
10	月	パインアメ	25	火	椿の香
11	火	実宝湯	26	水	生姜エキス
12	水	金木犀	27	木	パインアメ
13	木	玉露カテキン	28	金	オフコーラ
14	金	イヨシコーラ	29	土	実宝湯
15	土	ボジョレー	30	日	シャンパン

*上記は実宝湯・生緑茶・オフコーラ・乾燥ラベンダー・ルイボスティー、じゃばら、生レモン湯を除き全て入浴剤を使用します。

露天風呂 14日硫黄泉

↓充てるといふ方針のもと、市民の意見を取り入れて設計され、多様な道具や設備を自由に使える開かれた空間になっています。一方、歴史的建造物では、イッタラで有名なアラビア社の旧工場が印象的でした。フィンランドがスウェーデン領だった時代、ロシア皇帝のために食器を製造する目的で設立された歴史を持ちます。ちなみにイッタラ製品は日本の御殿場アウトレットの方が安いそうです。また、「岩の教会」として知られるテンペリアウキオ教会も圧巻でした。自然の岩盤をくり抜いて造られた独特の建築で、内部は岩に囲まれた静寂な空間となっています。ヘルシンキ全体の印象としては、「清潔で静か、落ち着いた街」という言葉がぴったりです。ゴミがほとんど見当たらず、人も少なく、のんびりとした雰囲気になっています。市民は他人を気にせず自分のペースで過ごしているようですが、すべての人が豊かな生活を送っているわけではなく、失業者や薬物・アルコール依存の問題もあるとのこと。ただし、高福祉国家として社会全体で支え合う仕組みがあり、その教育は小学校の段階から始まっているそうです。エストニアについても触れたいところですが、字数の都合上、今回はここまで。次回はサウナ編です。